

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 23年 11月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や利用者の思いを十分に汲み取り、その方が出来るだけ自然な形で生活出来るよう、個性や心身の状況など考慮したうえで、一人ひとりのペースに合った支援・ケアに努めている。例えば、不安や心配事を最小限にする為に、一人ひとりのペースや生活リズムを尊重した、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂くようにしている。また、自治会に加入して地域の行事等に参加することで、災害時など緊急の際にもグループホームの存在を認知して頂ける環境づくりをしている。一方、職員教育には特に力を入れており、各方面の研修には積極的に参加してもらい、各個人の資質向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平屋で事務所を中心にそれぞれのユニットが左右にある。リビングの畳スペースにはこたつが置かれ、休息をとる利用者もあり、寛ぎの空間となっている。日中、ほとんどの利用者はリビングで過ごしている。家族会を年2回開催して利用者の生活状況や事業所の取組みを報告したり、家族の要望等を聞き取り交流を深めケアに生かしている。管理者は「ゆとりが無いと良い介護はできない。」と考えており、職員数を増やしゆとりのある介護を実施している。職員のレベルアップのため研修にも積極的に参加し、職員からテーマを募り、毎月の職員会で勉強会等を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット 1

記入者(管理者)

氏名 青野 洋子

評価完了日 平成23年 11月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員でスタッフ会で話し合い、事業所独自の理念をつくり、管理者及び職員はその理念を常に念頭に置き、業務にあたっている。</p> <p>(外部評価) 理念は事務所に掲示して全職員が共有できるようにしている。2年前に全職員で話し合い「地域のつながりを大切に。」を追加した。毎月の全体会議で確認し合っている。また新しい職員には、入職時に説明して実践につなげるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には特に積極的に参加している。また、地域のボランティアの方々が、ホーム訪問の際、絵手紙を教えて下さるなど、交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 当初より自治会に加入して運動会や盆踊り、文化祭等、地域の行事に参加している。開設より7年が経過し高齢化や重度化で参加が困難な利用者が多くなっているが、できる限り参加し交流を図っている。またボランティアによる絵手紙教室を開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、地域の方々と共に認知症の勉強会を行い、支援の方法など話をして助言等を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、その内容を吟味した上でとり行い、入居者の近況や、研修内容の報告を行っている。地域住民の方々に参加して頂けるよう連絡を行い、参加された方々との情報交換を行う事で、さらなるサービス向上の場として活用している。	
			(外部評価) 行事や研修会、職員の異動状況等の報告を行ったり、参加者との情報交換を行っている。家族や自治会長、民生委員、老人会長等、できるだけ多くの方に参加してもらえるように調整を行っているが、日程が合わない等、苦慮している。	2か月に1回、開催することができるよう開催方法や時間を考慮したり、多方面から意見を得ることができるよう、様々な立場の方に参加を依頼する等、今後の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 行政とは積極的に情報交換を行っている。介護において、解らないことや困った事などは、その都度アドバイス等受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に毎回参加してもらい、行事や職員研修、異動等を報告したり、情報交換を行っている。ケアマネ会にも参加してもらっている。また、分からないことや困難事例について気軽に相談をしたり、アドバイスをもらう等良好な関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間は、防犯の為施錠を行ってはいるが、その点以外では身体的拘束は行わないケアを実践している。	
			(外部評価) 身体拘束を行わないケアを徹底するために、管理者より入職時に指導が行われたり、月1回の全体会議で取り上げて勉強会を行う等、共通の理解を図りケアの実践に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が起きないように、常に職員同士がチェックし、注意を払っている。高齢者虐待防止関連法については、外部研修などを利用して学ぶ機会を設け、施設内でも勉強会を通じて学びの場を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会を通じて学び、必要な人にはそれらを利用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、家族や利用者本人の思いを十分汲み取り、理解した上で、しっかりとした説明を行い、その不安や疑問点を解消して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には必ず家族の方に参加して頂き、要望など意見を頂いている。また、介護相談員の方を招き、入居者との会話を通じ、思いなどの把握に努めている。	
			(外部評価) 家族会を年2回実施して意見や要望の把握に努めている。家族会で意見を出しにくい場合や参加できない時は、面会時に聞くように工夫している。聞き取った内容は申し送りノートに記録して職員会で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月3回会議を行い、職員などで持ち上がっている様々な問題など話し合いを設け、改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 全体会議やユニット会を定期的実施している。会議には施設長、管理者が参加して意見を聞いている。各ユニットから議題を提案したり、勉強内容について自由に意見が出せる機会を設けている。研修の年間予定表を作成し、積極的に参加できるよう体制を整えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) キャリアアップ支援制度等利用し、職員のスキルアップに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) グループホーム協議会主催の研修には必ず職員が参加できるように調整を行うとともに、資格取得の為の支援（スクーリング及び研修受講の為の勤務シフトの調整、休暇の付与）を実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各施設間での勉強会に参加したり、相互研修を通じて意見交換や助言を頂き、質の良い介護に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前に十分に利用者本人と話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人と同様に、家族とも十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談受付の際は、当グループホーム利用が適切であるかどうかも含めて、他のサービス利用による支援についても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の下ごしらえや洗濯物干しなど日常の生活におけるお手伝いをして頂き、その際に工夫や知恵を享受している。職員が暮らしを共にする意識を常に持ち、利用者の方々にも同様に持って頂く環境づくりを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には、経験豊富な職員が対応し、本人と家族の架け橋となるよう、細心の気配りを行っている。また、家族の方からの相談があった場合には、誠心誠意を以って対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の方々との電話連絡により、安心した日々を送って頂いている。また、お盆やお正月などには外出して頂き、家族水入らずで楽しい時間を過ごして頂いている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、地域の行事に参加する事で馴染みの人と交流ができています。太鼓祭りや敬老会にはそれぞれの地元に帰り参加したり、外出して家族と過ごす等、利用者に合わせて支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、利用者同士の言動や行動を常に把握し、利用者同士の良い関係が保てるよう、声かけでの支援やレクリエーション参加でのつながりに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な入居者や家族の方には、利用が終了しても関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人との談話を心がけ、思いや意向の把握に努め、サービス担当者会議において、情報の提供と共有に努めている。困難な場合は、家族の方の意見も考慮の上、本人本位となるよう検討している。	
			(外部評価) 日常生活の中での会話や利用者の表情等で思いや意向の把握に努めているが、高齢化や重度化に伴い難しくなっている。意向の把握が困難な方は、家族に確認をしながら利用者本位になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に家族・本人・担当ケアマネージャーからの情報を基にアセスメントして、スタッフ会において入居前の情報提供をしている。入居後も面接時等に情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別サービスを通じて、その人らしく過ごして頂けるよう、個々の過ごし方の工夫をしている。変化があれば、情報の共有をして過ごしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月行っているスタッフ会で各入居者の現状報告を行い、介護計画の見直しを実施している。また、家族の方々に定期的に近況報告を行い、その意向も取り入れたプランを作成している。	
			(外部評価) 面会時に生活状況を報告し、家族の意見や要望を聞き取っている。介護計画は担当者が原案を作成し、ユニット会で職員の意見を取り入れながら作成し、介護計画の見直しや3か月に1回のモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の個別対応表にて、利用者個人の状況把握の共有をしている。水分摂取量・排泄・入浴などのチェック表を基に気づきを記入し、日頃のケアやプランにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期受診は基本的に家族に依頼している。都合がつかない場合は、職員が対応している。義歯の不都合時など、定期訪問以外の個別対応を実施し、快適に過ごして頂ける様努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日常生活の質をより向上させる為に社会資源（民生委員、介護相談員、ボランティアの方々による絵手紙、マンドリン、紙芝居など）を導入して、生活の安定に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 家族希望のかかりつけ医の継続を行い、定期受診は家 族付き添いで行って頂いている。家族が遠方の場合 は、看護師が同行受診し、家人へ状況報告をしてい る。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医の定期受診は家族に付き添ってもらっ ているが、家族が行けない時は看護師が同行している。 毎週歯科医の往診があり、口腔ケアを丁寧に行ってい る。夜間の緊急時は看護師が対応するよう連携体制が 整っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日定時にバイタル測定をし、状態変化の把握に努 め、変化時は看護師に伝えて、個々に適切な対応が 出来るよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は看護師が同行し、情報提供をしている。見舞 いを兼ねての情報交換や相談に努め、病院との連携を 行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に家族と十分に話し合いをし、家族の希望を考 慮する。家族の方針と施設で出来ることを十分な説明 のもとに情報の共有をして、家族・主治医と連携を取 りながら、看護師の指導のもと、症状の説明や対応の 仕方を共有し、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 入居時、家族と十分に話し合い「事業所での看取りは 行わない方針である。」事を説明して理解をしても らっている。看取りに関する方針を作成し医療処置が 必要になれば、家族、主治医、看護師が話し合い連携 を密に取り、事業所でできる限りの支援を行う事とし ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や事故発生時におけるマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、各職員が適切な対応が取れるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎朝、避難経路に障害物が無いか確認したうえで、施設周辺を整備したり、施設内の見廻りを行っている。またトリアージを取り入れたマニュアルをもとに定期的な防災訓練を行い、各職員に意識づけをしている。運営推進会議を通して実際に地域の方々にも参加して頂き、災害時の協力体制を整えている。 (外部評価) スプリンクラーや防災無線を設置し、安全面に配慮されている。年2回の防災訓練を行っているが、事業所の周りには会社や倉庫が多く夜間不在になるところが多い。	職員の緊急連絡網を整備しているが、駆けつけるまでに時間がかかりため、夜間に人がいる近くの他法人の事業所との連携体制を構築し、マニュアルに明記する等、協力体制の強化を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を表し、本人の意思を大切に、丁寧な言葉かけにて、対応している。カンファレンスで利用者各個人の共有を行い、ケアの統一を行っている。 (外部評価) 利用者は必ず姓名で呼ぶようにしており、一人ひとりの人格を尊重した対応ができるように職員教育を徹底している。排泄時の声かけは小さな声でさりげなく行い、入浴介助も信頼関係ができた上で介助を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 目線を合わせ、低い位置にて笑顔を絶やさず、ゆっくりとした会話をし、傾聴・受容に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 申し送り等にて利用者の状況を共有し、常に様子観察を行い、その時々合った最良の介護に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一度訪問美容が来られ、希望者の散髪をして下さっている。外出の際は、職員と一緒に服を選んだり。髪を整えたり、おしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 各入居者に応じたお手伝いをして頂いている。簡単な料理の下ごしらえや、食器拭き、布巾干し等、料理に携わって頂けるよう支援している。 (外部評価) 調理担当の職員2人が交代で調理し、味付けが一辺倒にならないようにしている。利用者には野菜等の下ごしらえを手伝ってもらっている。職員も一緒にテーブルを囲み同じ物を食べて、穏やかな雰囲気の中で楽しく食べる事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者に応じて主食や副食の量を調整している。食事摂取量が少ない場合は、ヨーグルトやプリンなどが本人が食べやすいもので補っている。食事だけでなく、水分も摂取量のチェックを行い、こまめな水分摂取を心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。拒否される入居者には時間を置いて勧めたり、職員が交代するなどの対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) こまめなトイレ誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、安易におむつ使用を行わず、夜間においても、トイレに介助にて行くことが出来る入居者については、トイレ誘導を行うようにしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。ポータブルトイレが設置されている居室もあるが、日中は全員トイレ誘導を実施している。夜間はオムツやポータブルトイレを使用したり、トイレ誘導する等、利用者の状態に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘による体調の変化の説明を看護師より受けており、個々の体格に合わせた水分量の摂取に努めている。少ない時は、好みの飲み物を提供するなど工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大まかな入浴日の設定はしているが、体調変化の有無の確認をして、本人本位となる入浴の支援を行っている。	
			(外部評価) 重度化を想定して特浴の設備を備え、安全に入浴できるようになっている。週3回の入浴を基本に利用者の希望や体調を考慮しながら実施している。入浴の苦手な利用者は一人ひとりに合った声かけをしたり、家族に協力をお願いする等し、楽しく気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて随時声かけし、無理強い無きよう、一人一人安心して出来るようなパターンを取って頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別ファイルと個人の薬かごに薬の説明シートを添付しており、職員はいつでも確認出来るようにしている。重要な薬については、看護師より全体会において説明・指導を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の力に応じて活かせる役割や楽しみなど気分転換が出来るように日々支援している。喜びや張り合いのある日々を過ごして頂けるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候が良い日は、個人の体調に合わせて外気浴に努めている。季節ごとに近場での外出を行い、地域での催し物には積極的に参加し、交流を深めている。 (外部評価) 運動会、盆踊り、文化祭等の地域行事や地域の福祉事業所のバザー等、積極的に参加している。ホームの周りを散歩したり、そうめん流しや花火、お月見等、中庭に出る機会を多くして。ドライブやもみじ狩り等の外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望する入居者の方は、一定額の金銭を持って頂き、職員がある程度把握している。買い物などで残金が少なくなれば、預り金より補充を行う。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に、本人及び家族の方に自由にやり取りが出来る旨の説明を行っている。入居者の方からの要請があれば、電話をかけるなどして対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の飾りつけを行い、四季を感じて頂いている。絵手紙の題材も季節感を取り入れて描いて頂き、作品はホールに表示されている。	
			(外部評価) リビングの畳のスペースにはこたつが置かれ、足を入れて横になったりテレビを見たり、周りに腰かけて話をしたりゆっくりできるようになっている。日中もほとんどの利用者がリビングで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者の方同士がコミュニケーションを取り易くする為に、ホールやテラスにベンチを設けたり、ホールを自由に行き来出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、本人・家族に相談し、馴染みの物品を持参して頂き、本人が居心地良く過ごして頂けるように空間作りの工夫をしている。	
			(外部評価) 畳の部屋がユニット毎に2室あり、状態に合わせて入居時に決めている。収納庫が広く衣類等が整理されている。室内は使い慣れた物やタンスを持ち込み、絵手紙教室で作成した作品や家族等の写真が飾られ、安心できる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所確認が出来るように、ポイントのなるもので表示をしたり、目線に合った表示物の掲示などで安心して頂けるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社ミキハウス
事業所名	グループホームしおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 23年 11月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や利用者の思いを十分に汲み取り、その方が出来るだけ自然な形で生活出来るよう、個性や心身の状況など考慮したうえで、一人ひとりのペースに合った支援・ケアに努めている。例えば、不安や心配事を最小限にする為に、一人ひとりのペースや生活リズムを尊重した、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂くようにしている。また、自治会に加入して地域の行事等に参加することで、災害時など緊急の際にもグループホームの存在を認知して頂ける環境づくりをしている。一方、職員教育には特に力を入れており、各方面の研修には積極的に参加してもらい、各個人の資質向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平屋で事務所を中心にそれぞれのユニットが左右にある。リビングの畳スペースにはこたつが置かれ、休憩をとる利用者もあり、寛ぎの空間となっている。日中、ほとんどの利用者はリビングで過ごしている。家族会を年2回開催して利用者の生活状況や事業所の取組みを報告したり、家族の要望等を聞き取り交流を深めケアに生かしている。管理者は「ゆとりが無いと良い介護はできない。」と考えており、職員数を増やしゆとりのある介護を実施している。職員のレベルアップのため研修にも積極的に参加し、職員からテーマを募り、毎月の職員会で勉強会等を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット 2

記入者(管理者)

氏名 青野 洋子

評価完了日 平成23年 11月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員でスタッフ会で話し合い、事業所独自の理念をつくり、管理者及び職員はその理念を常に念頭に置き、業務にあたっている。</p> <p>(外部評価) 理念は事務所に掲示して全職員が共有できるようにしている。2年前に全職員で話し合い「地域のつながりを大切に。」を追加した。毎月の全体会議で確認し合っている。また新しい職員には、入職時に説明して実践につなげるようにしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には特に積極的に参加している。また、地域のボランティアの方々が、ホーム訪問の際、絵手紙を教えて下さるなど、交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 当初より自治会に加入して運動会や盆踊り、文化祭等、地域の行事に参加している。開設より7年が経過し高齢化や重度化で参加が困難な利用者が多くなっているが、できる限り参加し交流を図っている。またボランティアによる絵手紙教室を開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、地域の方々と共に認知症の勉強会を行い、支援の方法など話をして助言等を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、その内容を吟味した上でとり行い、入居者の近況や、研修内容の報告を行っている。地域住民の方々に参加して頂けるよう連絡を行い、参加された方々との情報交換を行う事で、さらなるサービス向上の場として活用している。	
			(外部評価) 行事や研修会、職員の異動状況等の報告を行ったり、参加者との情報交換を行っている。家族や自治会長、民生委員、老人会長等、できるだけ多くの方に参加してもらえるように調整を行っているが、日程が合わない等、苦慮している。	2か月に1回、開催することができるよう開催方法や時間を考慮したり、多方面から意見を得ることができるよう、様々な立場の方に参加を依頼する等、今後の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 行政とは積極的に情報交換を行っている。介護において、解らないことや困った事などは、その都度アドバイス等受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に毎回参加してもらい、行事や職員研修、異動等を報告したり、情報交換を行っている。ケアマネ会にも参加してもらっている。また、分からないことや困難事例について気軽に相談をしたり、アドバイスをもらう等良好な関係が構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間は、防犯の為施錠を行ってはいるが、その点以外では身体的拘束は行わないケアを実践している。	
			(外部評価) 身体拘束を行わないケアを徹底するために、管理者より入職時に指導が行われたり、月1回の全体会議で取り上げて勉強会を行う等、共通の理解を図りケアの実践に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が起きないように、常に職員同士がチェックし、注意を払っている。高齢者虐待防止関連法については、外部研修などを利用して学ぶ機会を設け、施設内でも勉強会を通じて学びの場を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業等、権利擁護に関する制度について研修やスタッフ会を通じて学び、必要な人にはそれらを利用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、家族や利用者本人の思いを十分汲み取り、理解した上で、しっかりとした説明を行い、その不安や疑問点を解消して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には必ず家族の方に参加して頂き、要望など意見を頂いている。また、介護相談員の方を招き、入居者との会話を通じ、思いなどの把握に努めている。 (外部評価) 家族会を年2回実施して意見や要望の把握に努めている。家族会で意見を出しにくい場合や参加できない時は、面会時に聞くように工夫している。聞き取った内容は申し送りノートに記録して職員会で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月3回会議を行い、職員などで持ち上がっている様々な問題など話し合いを設け、改善に努めている。 (外部評価) 全体会議やユニット会を定期的実施している。会議には施設長、管理者が参加して意見を聞いている。各ユニットから議題を提案したり、勉強内容について自由に意見が出せる機会を設けている。研修の年間予定表を作成し、積極的に参加できるよう体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) キャリアアップ支援制度等利用し、職員のスキルアップに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型連絡協議会の研修には、毎月職員が参加しており、資格取得の為の支援、研修受講の為の勤務シフトの調整、休暇の付与を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修や地域密着型部会研修への参加を通じて、同業者と交流する機会を設け、他の施設の良い所を学ぶことにより、サービスの向上につなげている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前において、家族・本人からのアセスメント情報をもとに本人を理解し、サービス開始の段階で時間の流れの説明や、ゆっくり本人と話をすることで安心を確保するための関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人と同様に、家族とも十分に話をする時間を確保し、不安や要望の把握に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談受付の際は、当グループホーム利用が適切であるかどうかも含めて、他のサービス利用による支援についても助言・相談を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の下ごしらえや洗濯物干しなど日常の生活におけるお手伝いをして頂き、その際に工夫や知恵を享受している。職員が暮らしを共にする意識を常に持ち、利用者の方々にも同様に持って頂く環境づくりを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には、経験豊富な職員が対応し、本人と家族の架け橋となるよう、細心の気配りを行っている。また、家族の方からの相談があった場合には、誠心誠意を以って対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の方々との電話連絡により、安心した日々を送って頂いている。また、お盆やお正月などには外出して頂き、家族水入らずで楽しい時間を過ごして頂いている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多いため、地域の行事に参加する事で馴染みの人と交流ができています。太鼓祭りや敬老会にはそれぞれの地元に帰り参加したり、外出して家族と過ごす等、利用者に合わせて支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、利用者同士の言動や行動を常に把握し、利用者同士の良い関係が保てるよう、声かけでの支援やレクリエーション参加でのつながりに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりが必要な入居者や家族の方には、利用が終了しても関係を断ち切らないようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人との談話を心がけ、思いや意向の把握に努め、サービス担当者会議において、情報の提供と共有に努めている。困難な場合は、家族の方の意見も考慮の上、本人本位となるよう検討している。	
			(外部評価) 日常生活の中での会話や利用者の表情等で思いや意向の把握に努めているが、高齢化や重度化に伴い難しくなってきた。意向の把握が困難な方は、家族に確認をしながら利用者本位になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に家族・本人・担当ケアマネージャーからの情報を基にアセスメントして、スタッフ会において入居前の情報提供をしている。入居後も面接時等に情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別サービスを通じて、その人らしく過ごして頂けるよう、個々の過ごし方の工夫をしている。変化があれば、情報の共有をして過ごしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月行っているスタッフ会で各入居者の現状報告を行い、介護計画の見直しを実施している。また、家族の方々に定期的に近況報告を行い、その意向も取り入れたプランを作成している。 (外部評価) 面会時に生活状況を報告し、家族の意見や要望を聞き取っている。介護計画は担当者が原案を作成し、ユニット会で職員の意見を取り入れながら作成し、介護計画の見直しや3か月に1回のモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の申し送り表に個々の時間的な状況や状態変化等を記入し、更に個別ファイルに記録担当者が記入している。各シフトでの申し送りをして、情報の共有をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 協力医による往診での予防注射の実施や体調変化時の往診で、高齢者及び家族の方のニーズに対応している。協力歯科医においても、個別の訪問歯科をしてもらうことで、即時の対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日常生活の質をより向上させる為に社会資源（民生委員、介護相談員、ボランティアの方々による絵手紙、マンドリン、紙芝居など）を導入して、生活の安定に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 家族希望のかかりつけ医の継続を行い、定期受診は家 族付き添いで行って頂いている。家族が遠方の場合 は、看護師が同行受診し、家人へ状況報告をしてい る。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医の定期受診は家族に付き添ってもらっ ているが、家族が行けない時は看護師が同行している。 毎週歯科医の往診があり、口腔ケアを丁寧に行ってい る。夜間の緊急時は看護師が対応するよう連携体制が 整っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日定時にバイタル測定をし、状態変化の把握に努 め、変化時は看護師に伝えて、個々に適切な対応が 出来るよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は看護師が同行し、情報提供をしている。見舞 いを兼ねての情報交換や相談に努め、病院との連携を 行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に家族と十分に話し合いをし、家族の希望を考 慮する。家族の方針と施設で出来ることを十分な説明 のもとに情報の共有をして、家族・主治医と連携を取 りながら、看護師の指導のもと、症状の説明や対応の 仕方を共有し、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 入居時、家族と十分に話し合い「事業所での看取りは 行わない方針である。」事を説明して理解をしても らっている。看取りに関する方針を作成し医療処置が 必要になれば、家族、主治医、看護師が話し合い連携 を密に取り、事業所でできる限りの支援を行う事とし ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や事故発生時におけるマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、各職員が適切な対応が取れるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎朝、避難経路に障害物が無いか確認したうえで、施設周辺を整備したり、施設内の見廻りを行っている。またトリアージを取り入れたマニュアルをもとに定期的な防災訓練を行い、各職員に意識づけをしている。運営推進会議を通して実際に地域の方々にも参加して頂き、災害時の協力体制を整えている。 (外部評価) スプリンクラーや防災無線を設置し、安全面に配慮されている。年2回の防災訓練を行っているが、事業所の周りには会社や倉庫が多く夜間不在になるところが多い。	職員の緊急連絡網を整備しているが、駆けつけるまでに時間がかかりため、夜間に人がいる近くの他法人の事業所との連携体制を構築し、マニュアルに明記する等、協力体制の強化を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を表し、本人の意思を大切に、丁寧な言葉かけにて、対応している。カンファレンスで利用者各個人の共有を行い、ケアの統一を行っている。 (外部評価) 利用者は必ず姓名で呼ぶようにしており、一人ひとりの人格を尊重した対応ができるように職員教育を徹底している。排泄時の声かけは小さな声でさりげなく行い、入浴介助も信頼関係ができた上で介助を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 目線を合わせ、低い位置にて笑顔を絶やさず、ゆっくりとした会話をし、傾聴・受容に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 申し送り等にて利用者の状況を共有し、常に様子観察を行い、その時々合った最良の介護に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に一度訪問美容が来られ、希望者の散髪をして下さっている。外出の際は、職員と一緒に服を選んだり。髪を整えたり、おしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえの手伝いを通じて、その日のメニューの話をしている。その時、料理の手順等の話をして下さり、職員が学ぶことも多い。後片付けの食器拭きも一緒にして下さっている。 (外部評価) 調理担当の職員2人が交代で調理し、味付けが一辺倒にならないようにしている。利用者には野菜等の下ごしらえを手伝ってもらっている。職員も一緒にテーブルを囲み同じ物を食べて、穏やかな雰囲気の中で楽しく食べる事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 本人の好き嫌いの把握をして、職員間で情報の共有をしている。食べれそうにない時は、代替品で摂取して頂いている。食事量・水分量は、チェック表をもとに状況判断をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、入居者一人ひとりに合ったケアを行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。週に一回以上の訪問歯科診療を受けており、誤嚥性肺炎の予防についての助言をして頂き、歯科医師提供の含漱液を使用により清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツの利用は出来るだけ控え、入居者に応じたトイレ誘導や排泄用品を使用し、自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。ポータブルトイレが設置されている居室もあるが、日中は全員トイレ誘導を実施している。夜間はオムツやポータブルトイレを使用したり、トイレ誘導する等、利用者の状態に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一日の申し送り表を基に個々の排泄状態の把握をしている。個々の水分摂取量を常時記録し、少ない時は好みの飲み物で水分補給に努めている。また、散歩を日課に取り入れることで、運動による便秘の予防も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大まかな入浴日を決めているが、外出前日や散髪した後など臨機応変に入浴を勧めている。本人が希望する場合、入浴日にこだわることなく入浴して頂いている。	
			(外部評価) 重度化を想定して特浴の設備を備え、安全に入浴できるようになっている。週3回の入浴を基本に利用者の希望や体調を考慮しながら実施している。入浴の苦手な利用者は一人ひとりに合った声かけをしたり、家族に協力をお願いする等し、楽しく気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の生活リズムに合わせて、昼寝の声かけや自室で休んで頂けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者の個人ファイルと個人の薬かごに薬の説明シートを添付しており、いつでも確認出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理の下準備の手伝いや、洗濯たたみなどの役割分担は日課として取り入れており、趣味の絵手紙参加や入居前からのマスコットを持参して頂いたりして、楽しみごとの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々、近場での散歩を日課として取り入れており、個々の状況に合わせて実施している。遠方での外出は、定期的に計画を立て、家族の方にも協力を得ている。 (外部評価) 運動会、盆踊り、文化祭等の地域行事や地域の福祉事業所のバザー等、積極的に参加している。ホームの周りを散歩したり、そうめん流しや花火、お月見等、中庭に出る機会を多くしてる。ドライブやもみじ狩り等の外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望する入居者の方は、一定額の金銭を持って頂き、職員がある程度把握している。買い物などで残金が少なくなれば、預り金より補充を行う。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に、本人及び家族の方に自由にやり取りが出来る旨の説明を行っている。入居者の方からの要請があれば、電話をかけるなどして対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の飾りつけを行い、四季を感じて頂いている。絵手紙の題材も季節感を取り入れて描いて頂き、作品はホールに表示されている。	
			(外部評価) リビングの畳のスペースにはこたつが置かれ、足を入れて横になったりテレビを見たり、周りに腰かけて話をしたりゆっくりできるようになっている。日中もほとんどの利用者がリビングで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者の方同士がコミュニケーションを取り易くする為に、ホールやテラスにベンチを設けたり、ホールを自由に行き来出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に、本人・家族に相談し、馴染みの物品を持参して頂き、本人が居心地良く過ごして頂けるように空間作りの工夫をしている。	
			(外部評価) 畳の部屋がユニット毎に2室あり、状態に合わせて入居時に決めている。収納庫が広く衣類等が整理されている。室内は使い慣れた物やタンスを持ち込み、絵手紙教室で作成した作品や家族等の写真が飾られ、安心できる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所確認が出来るように、ポイントのなるもので表示をしたり、目線に合った表示物の掲示などで安心して頂けるよう工夫している。	